

研究会レポート

地域産業研究会（北海道技術士センター）

4月～8月は最も研究会活動が活発化する時期である。今回はこの時期に実施された2回の恒例会、分科会活動の概要についてレポートした。

(1) 恒例会

第1回恒例会は5月26日、ドーコン会議室にて行った。講演は元北海道大学触媒化学研究センター 清野和夫氏に「硝子工作にみる驚き」とのタイトルでお願いした。

清野氏は昭和25年に北海道大学、当時の触媒化学研究所硝子工作室に入った。それ以来、51年間にわたって研究室にて硝子工作一筋を歩いてきた。硝子工作とは硝子を用いて研究用の器具を工作するものであり、実験の正否を左右する大変重要な仕事である。

研究室で先生方からの研究の目的が告げられ、それに答えるための実験器具の開発・改良をしなければならぬときなど、夜中にアイデアが浮かぶのが常で、枕元に鉛筆とメモ紙を置いて置き、記録することが紹介された。

講演会では理化学用硝子製品（硝子工作）を10点ほどの紹介があった（写真参照）。それぞれが、普通には考えられないような微細な技術と創作の集大成であった。触媒化学研究センターの出張で海外にも出掛け、清野さん達の作成した硝子製品はドイツや中国で高い評価を受けているという。氏の活動は先端技術の研究を支え、まさに「縁の下の力持ち」的な役割を果たしている。

これらの長年の苦勞が報われたひとつに平成2年に日本化学会から、触媒研究に関連した硝子装置の開発・改良への貢献が認められ「化学研究有効賞」の受賞がある。硝子工作に関する技術は親方から弟子へと徒弟制度のもとで技術の伝承が行われていることである。清野さんは師匠に当る先輩の横山さんから厳しい指導を受け、その技術を清野さんの後継者である石川さんにしっかりと技術伝承をしている

という。

このように仕事の内容が息を抜けない緊張感の連続であるため、スポーツはリラックスするために最適であることである。因みにボディービルは20代、パワーリフティングは40代から、卓球も大学のスポーツクラブでリーダとして活躍してきたそうである。

第二回恒例会は7月28日、ドーコン会議室にて行われた。講師は北海道大学大学院農学研究科 浅野行蔵教授にお願いした。なお、浅野教授は当研究会の会員でもある。



写真-1 清野氏の話提供



写真-2 硝子工作品の紹介

タイトルは「バイオアイランド北海道、技術士の仕事の成果と方向性」である。

浅野氏はまず、最近 10 年間の研究内容を紹介された。

- ・道内食品加工企業への製造及び衛生技術サポートの紹介
- ・北方食物であるチコリを原料としたカルシウム吸収促進食素材の開発と販売促進および EU マーケティング。
- ・清酒、焼酎および味噌用乾燥酵母の開発と全国販売。
- ・低温でもコンポスト発酵できる微生物セットの開発援助。
- ・実地研修会『自分でやってみよう遺伝子組換え』講座の毎年開催。
- ・GM 大豆 95%仕様納豆の発売へ。
- ・補助金農業から独立農業への方向性。

先端技術のひとつにあげられるバイオテクノロジーの中から食材に応用した遺伝子組み換え技術の現状と方向性、その中で技術士の果たすべき役割についての話題である。農業立国の北海道として、北海道の生き残る道は農業以外になく、この分野を積極的に推進するためには、新しい技術とマネジメントが必要である。

現在、食料自給率が 40%であることの現状を見るとさらに積極的にこの流れを推進しなければならない。これの最先端を走るのがバイオテクノロジーに代表される遺伝子組換え技術であり、その分野は大きな潜在的な可能性を占めている。技術士がその推進役としての役割が大切であることを強調されていた。

質疑では食品の安全性に関する点がポイントになった。新テクノロジーを用いた技術は技術が高度化するに従い、複雑化し一般の消費者にはその仕組

みや概念の理解が困難である。消費者に食品の安全性、メリットとデメリット、について理解しやすく説明をすることが前提となる。技術士の役割のひとつを垣間見る思いがした。

(2) 分科会活動

地域活性化分科会は寿都町と連携した活動が 5 年目に入る。美海寿(ミューズ)『美しい海づくりプロジェクト』と『寿都ファンクラブ』の 2 大プロジェクトを推進する新たな活動に向けて、新規会員を募集した。

8 月 22 日から 24 日には、寿都町の『海』『川』『山』『農地・市街地』の現地調査、リージョナル教育分科会とのジョイント出前講義、『寿都ファンクラブ』の HP 作りの打合せ及び交流会などなど、多岐に渡る活動を展開している。

これらの 5 年間の寿都町との交流研究が認められ『全国都市再生モデル調査』に寿都町が推薦され、現在、最終審査まで残っているとの情報である。

エゾシカ分科会は現在、提言集の作成を行っている。章立てが決まり、その流れに沿って執筆作業に入った。これから、本格的なまとめの段階に入る。月に一度の頻度で分科会が行われており、成果が期待される。

規制緩和分科会は 9 月 5 日の恒例会において北海道農業会議の広畑氏を講師に迎え、「規制緩和、その後」と題した講演会を企画した。公演には自ら農業とレストラン経営を手がけた干場氏の具体的な事例紹介とそれに拘わる規制問題について広畑氏がわかりやすく、規制の実態について解説された。なお、この紹介は次回に研究会レポートにて行う予定とした。

(文責：地域産業研究会幹事 斉藤 和夫)